

## 6. 変数ラベル

定義された変数にラベルを貼ることができます。ラベルは、出力の際に統計表に表示することができるので、これをつけておくと分析作業の際にたいへん便利です。ただし、あまり長いラベルは最後まで表示されないことがあるので、簡潔につけましょう。

ラベルは日本語でも、ローマ字でも付けられます。日本語でラベルを付ける場合、ラベルを二重クォーテーションで囲んでおくと、日本語 FEP (MS-ime や atok) にかかわりなく、エラーになりません。もちろん全角文字も可です。ローマ字の場合には、一重のクォーテーションで十分です。

コマンドは、変数が定義された後であれば、どこにおいてもかまいません (→変数の変換も参照)。

具体的な作業手順はつぎのとおりです。

①すでに作成したシンタックス・ファイルを立ち上げる (→5.2-⑥)。

② data list コマンドのピリオドの後ろ (freq chiten の直前) に変数ラベルのコマンド・シンタックスを入力する (図 6.1 を参照)。

変数ラベルの一般的な書式は、

variable labels 変数名 "変数ラベル".

二重クォーテーションの外のスペースは、必ず半角で入力すること。スペースはいくつ打ってもかまいません。ただし全角スペースはエラーとなります (→よくあるエラー①)。

最後にピリオドを忘れずに。

図 6.1 variable list の具体例

```
variable labels chiten "居住地域" q1 "婚姻状態"  
q2a "同居子数" q2b "市区内子供数" q2c "都内子供数"  
q2d "3県内子供数" q2e "首都圏子供数" q2f "その他子供数"  
q3 "入学前子供" q4 "小学子供" q5 "中学子供" q6 "その他子供"  
q7 "両親居住地" q8 "両親接触" q9 "両親電話" q10 "配偶者両親居住地"  
q11 "配偶者両親接触" q12 "配偶者両親電話" q13a "同居兄弟数"  
q13b "区内兄弟数" q13c "都内兄弟数" q13d "3県内兄弟数"  
q13e "首都圏兄弟数" q13f "その他兄弟数" q14a "近距離親族数"  
q14b "30-1時間親族数" q14c "1-2時間親族数" q14d "遠距離親族数"  
q15a "近距離同僚数" q15b "30-1時間同僚数" q15c "1-2時間同僚数"  
q15d "遠距離同僚数" q16a "近距離仕事数" q16b "30-1時間仕事数"  
q16c "1-2時間仕事数" q16d "遠距離仕事数" q17 "隣人数"  
q18a "近距離友人数" q18b "30-1時間友人数" q18c "1-2時間友人数"  
q18d "遠距離友人数" q19a1 "郵便・親子" q19a2 "郵便・兄弟"
```

q19a3 “郵便・親戚” q19a4 “郵便・同僚” q19a5 “郵便・仕事”  
 q19a6 “郵便・近所” q19a7 “郵便・友人” q19a8 “郵便・専門”  
 q19a9 “郵便・いない” q19b1 “入院・親子” q19b2 “入院・兄弟”  
 q19b3 “入院・親戚” q19b4 “入院・同僚” q19b5 “入院・仕事”  
 q19b6 “入院・近所” q19b7 “入院・友人” q19b8 “入院・専門”  
 q19b9 “入院・いない” q19c1 “貯蓄・親子” q19c2 “貯蓄・兄弟”  
 q19c3 “貯蓄・親戚” q19c4 “貯蓄・同僚” q19c5 “貯蓄・仕事”  
 q19c6 “貯蓄・近所” q19c7 “貯蓄・友人” q19c8 “貯蓄・専門”  
 q19c9 “貯蓄・いない” q19d1 “法律・親子” q19d2 “法律・兄弟”  
 q19d3 “法律・親戚” q19d4 “法律・同僚” q19d5 “法律・仕事”  
 q19d6 “法律・近所” q19d7 “法律・友人” q19d8 “法律・専門”  
 q19d9 “法律・いない” q19e1 “悩み・親子” q19e2 “悩み・兄弟”  
 q19e3 “悩み・親戚” q19e4 “悩み・同僚” q19e5 “悩み・仕事”  
 q19e6 “悩み・近所” q19e7 “悩み・友人” q19e8 “悩み・専門”  
 q19e9 “悩み・いない” q19f1 “気晴・親子” q19f2 “気晴・兄弟”  
 q19f3 “気晴・親戚” q19f4 “気晴・同僚” q19f5 “気晴・仕事”  
 q19f6 “気晴・近所” q19f7 “気晴・友人” q19f8 “気晴・専門”  
 q19f9 “気晴・いない” q20a “町内会” q20b “婦人会” q20c “子ども会”  
 q20d “生協” q20e “商店会” q20f “業界団体” q20g “労働組合”  
 q20h “宗教団体” q20i “政党” q21a “PTA” q21b “学童保育”  
 q21c “子ども団体” q22a “福祉団体” q22b “趣味団体”  
 q22c “スポーツ団体” q22d “住民運動団体” q22e “その他団体”  
 q22f “自由回答” q23 “ストレス” q24a “規範・墓” q24b “規範・家”  
 q24c “規範・同居” q24d “規範・扶養” q24e “規範・役割”  
 q24f “規範・母親” q24g “規範・子供” q24h “規範・独身”  
 q24i “規範・同姓” q25 “同居志向” q26 “女性就労継続” q27 “外国人”  
 q28 “政治志向” q29 “居住年数” q30 “居住形態” q31 “部屋数”  
 q32 “延床面積” q33 “永住意志” q34 “前住地” q34sq “前住地名”  
 q35 “前住居住形態” q36 “出身地” q36sq “出身地名” q37 “当時行政区”  
 q38 “家族移住時期” q39 “市区永住意志” q40 “東京居住年数”  
 q41 “世帯類型” q42a “性別” q42b “年齢” q43 “学歴” q44 “雇用形態”  
 q45 “企業規模” q46 “産業” q47 “役職” q48 “職業” q48s “職業中分類”  
 q49 “通勤時間” q50\_1 “就職・先生” q50\_2 “就職・先輩”  
 q50\_3 “就職・友人” q50\_4 “就職・知人” q50\_5 “就職・同郷”  
 q50\_6 “就職・家族” q50\_7 “就職・職安” q50\_8 “就職・民間”  
 q50\_9 “就職・求人” q50\_10 “就職・家業” q50\_11 “就職・開業”  
 q50\_12 “就職・現職” q50\_13 “就職・前職” q50\_14 “就職・その他”  
 q51 “転職回数” q52 “本人年収” q53 “父親学歴” q54 “父親雇用形態”  
 q55 “父親職業” q56 “配偶者学歴” q57 “配偶者雇用形態”  
 q58 “配偶者企業規模” q59 “配偶者役職” q60 “配偶者職業”

q60s “配偶職業中分類” q61 “世帯収入”.

③変数ラベルのエラーをチェックする。

具体例にあるように、実際に変数ラベルをつけるとかなりの量になり、エラーが起りやすくなります。そこで、この段階で、プログラムを走らせ、エラーメッセージが出るかどうかチェックしておくといよいでしょう。

※いろいろなコマンドシンタックスを詰め込んでから、まとめて走らせると、いろいろな段階のエラーが出てきて、混乱してしまいます。各段階ごとに、こまめにチェックをしておくことをお勧めします。

この段階では、すべての変数の度数分布表を出す必要はありません。data list 作成の際に実行した freq chiten. (5.2-③) を、variable list コマンドの後（つまりピリオドの後、通常は次の行）にもってきて、実行すれば、プログラム全体が実行され、エラーがあれば検出されます。

#### 【実行の方法】

シンタックス・ファイルを立ち上げてから、まだ一度も実行していない場合には、data list の読み込みからはじめなければなりません。図 4.1 のように[実行]→[すべて]をクリックします。

2回目以降、つまりすでに data list コマンドを実行してあって、SPSS データ・ファイルが生成されている場合には、新たに付け加えたコマンド（今回の場合は、variable labels）のところにカーソルをおいて、[実行]→[最後まで]をクリックすると、すでに生成されている SPSS データ・ファイルに対して、カーソル位置以下が実行されます。

#### 【よくあるエラー③】

実行すると、度数分布表が出てきますが、その前にエラーメッセージが出ているかどうかポイントです。よくあるエラーとしては、

- 1) ラベルの文字列が、クォーテーションで囲まれていなかった。
- 2) スペースを全角で打っていた。
- 3) 最後のピリオドが抜けていた。
- 4) 変数名に入力ミスがあった。

などが考えられます。

出来上がったシンタックスは、[Ctrl]+[S]で忘れずに保存しましょう。